

2015年4月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

月平均500 hPa 高度では、カナダ東部、ロシア西部で負偏差、ヨーロッパ西部、中央シベリア北部で正偏差が見られた。日本付近は本州から日本の東の海上に中心を持つ正偏差に広く覆われた。亜熱帯ジェット気流は、平年の位置と比べて、中東付近で北寄り、中国南部では南寄りを流れた。本州付近では平年より弱かった。太平洋中部～東部では偏西風の分流が明瞭だった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、北太平洋西・中部の10°N 帯、インド、南インド洋熱帯域の東部で活発、南太平洋熱帯域の中部、南シナ海では不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、上旬前半はインド洋にみられ、それ以降は不明瞭となった。対流圏下層の赤道域では、インド洋～太平洋で広く南北半球対の低気圧性循環偏差となり、太平洋では西風偏差が卓越した。対流圏上層のユーラシア大陸では、亜熱帯ジェット気流に沿って波列パターンがみられた。南方振動指数は+0.1だった。

世界の天候

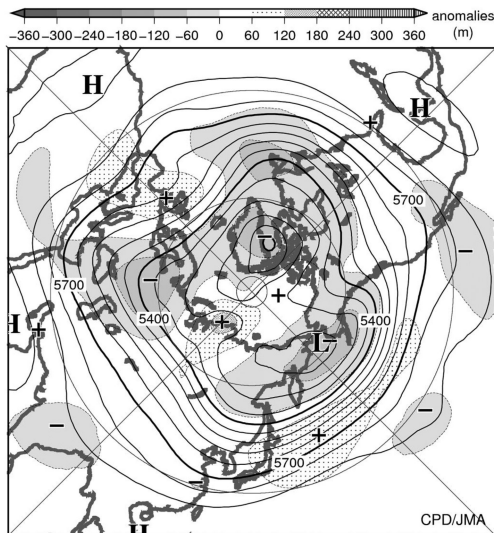
2015年4月の世界の月平均気温偏差は+0.30°C（速報値）で、1891年の統計開始以来、3番目に高い値となった。4月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.74°C/100年（速報値）である。

主な異常天候発生地域は次のとおり。

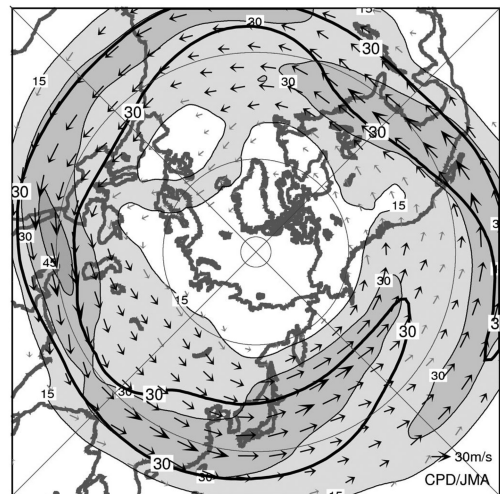
- インド南部では異常多雨となった。
- ヨーロッパ南西部～北アフリカ西部では異常高温・異常少雨となった。
- フロリダ半島～ユカタン半島では3月に引き続き異常高温となった。

（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

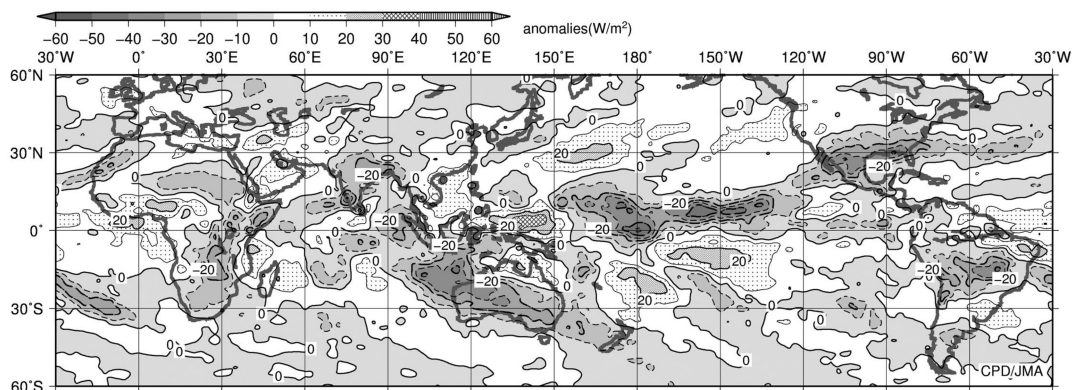
※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。
<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2015年4月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差
 等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

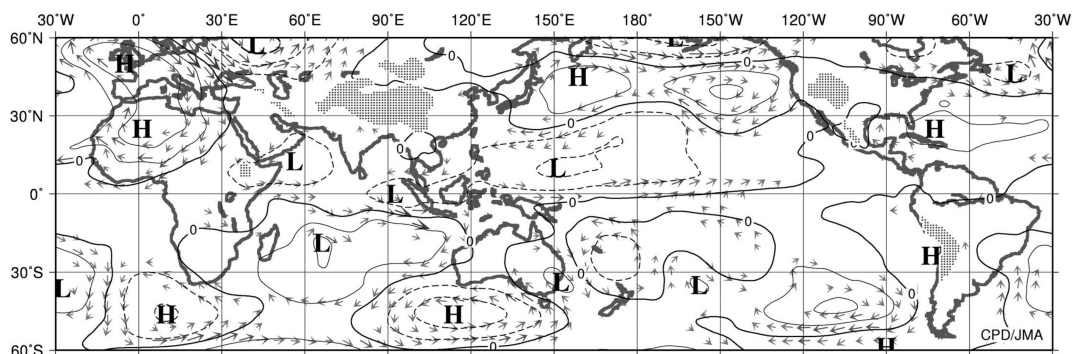


2015年4月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル
 等値線間隔は15 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は30 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。

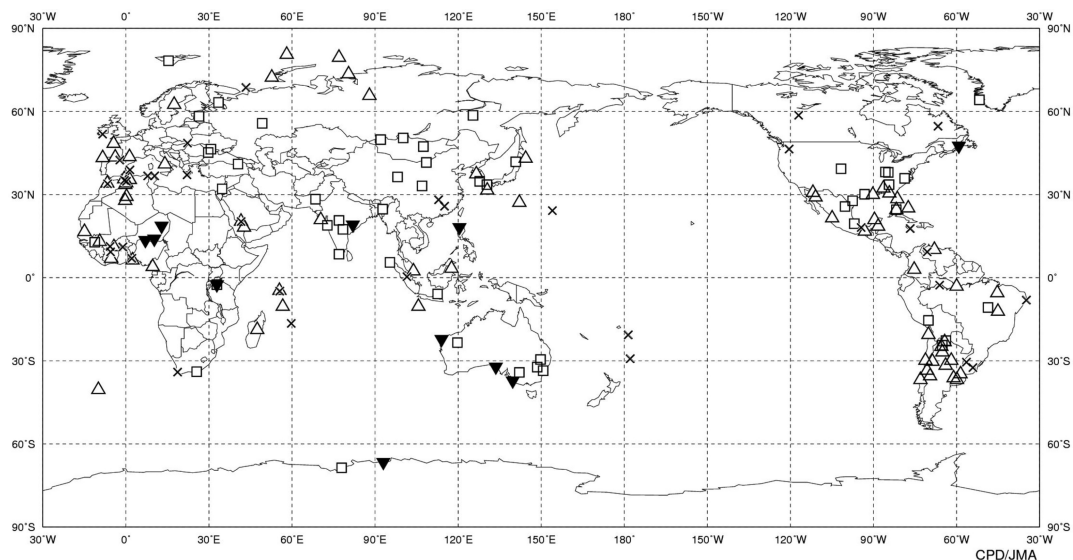


2015年4月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2015年4月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981～2010年の平均値。



2015年4月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。